

前回の事業評価結果の反映状況

前回の事業評価がないため記載せず。

定量的な目標・効果

【目標】平成26年度(事業対象期間:H25. 10. 1~H26. 9. 30)

- ・デマンド交通の利用者数:26,000人
- ・シャトル便の利用者数 :17,000人

【効果】

- ・デマンド交通の運行により、交通不便地域の解消が図れ、高齢者等の交通弱者の移動手段が確保される。
- ・既存路線バス、デマンド交通及びシャトル便の相互の乗り継ぎにより、公共交通での市内移動が快適に行えるネットワークが形成される。

目標効果の達成状況

【デマンド交通】

利用者数:13,197人

- ・目標に対する実利用者数の割合は50.75%にとどまったが、既存路線バスや鉄道駅へのアクセス向上、また、病院・スーパー・公共施設等へのアクセスが向上し、交通不便地域の解消及び高齢者等の交通弱者の移動手段を確保できた。

【シャトル便】

利用者数:7,608人

- ・目標に対する実利用者数の割合は44.75%にとどまったが、従来、タクシー以外の移動手段が存在しなかった本庄駅~本庄早稲田駅間の新たな移動手段を確保できた。また、利用者数は増加の傾向にあり、交通結節点としての機能充実、及び快適なネットワークの形成が図れた。

アピールポイント

市内に約400箇所あるデマンド交通の停留所について、自治会との協力により見直しを行っている。

既存路線バス、デマンド交通及びシャトル便の豊富な割引メニューを用意している。

今後の改善点

【デマンド交通】

利用者数の目標を下回った理由としては、従来の市内循環バスが無料であったのに対して有料になったこと、また、従来の定期路線運行から事前予約の方式に変わったこと等が考えられる。広報紙によるサービスの説明・周知を継続していくとともに、高齢者等を対象とした”利用につながる説明会”等の開催により、需要の掘り起こしを図る。

【シャトル便】

利用者の半数が市外在住者であるとの調査結果が出ている。市外の方への情報発信力が低いことが、目標を下回った一因だと考えられる。住民へのPRを継続するとともに、時刻表を乗換検索サイトに掲載するなど、デマンド交通とは異なるアプローチにより利用促進を図っていく。

【共通事項】

事業評価に先立ち、アンケート結果や利用状況を基に、本庄市交通政策協議会において運行の検証を行った。本改善点は、協議会での議論を踏まえた取り組み内容である。利用者のニーズ、地域と各運行区域の特性などを踏まえ、記載した内容を中心に適正・適法に改善に取り組んでいく。